常時水没している構造物の点検の効率化技術

【要件：求める技術】
　常時水没している河川や港湾構造物（鋼、コンクリート）の水中部での目視点検を支援する技術

【現状】

　現状、大阪市では常時水没している土木構造物の点検は、主として職員の潜水士が目視点検を行っている。

　水中は作業時に発生する濁りや浮遊物により視界が悪く、対象物、損傷等の視認が困難である。

　また、構造物には水中生物（貝類、藻類など）が付着しているため、除去が必要である。

常時水没している構造物の点検の効率化技術

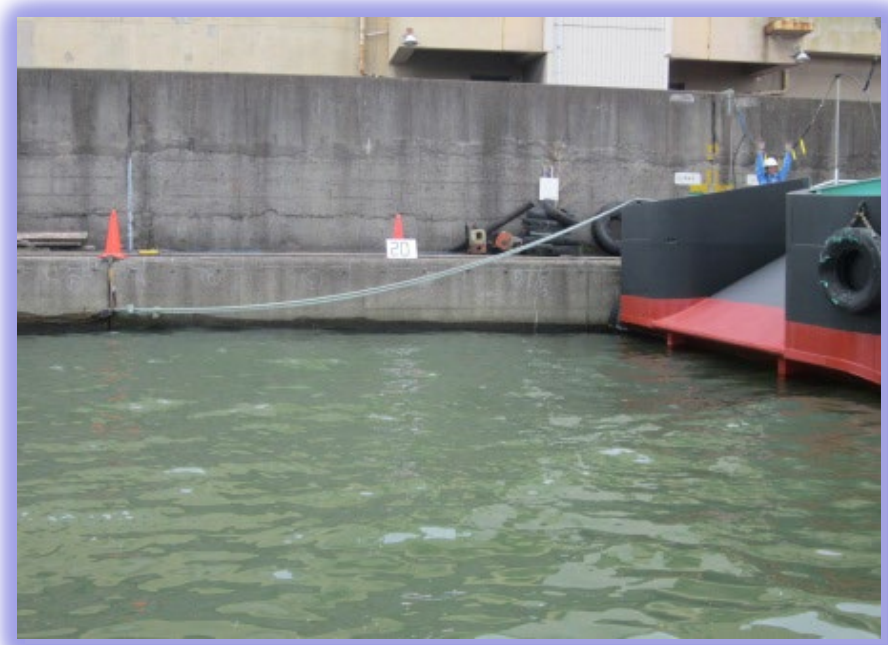
【課題】

今後、河川構造物や港湾構造物の老朽化が進む中、点検の需要がますます増大することが予想されることから、点検作業の効率化が求められている。

そこで、水中での点検作業の困難性を十分理解し、目視点検を支援でき効率的で精度の良い技術を求める。

常時水没している構造物の点検の効率化技術

【参考状況写真】



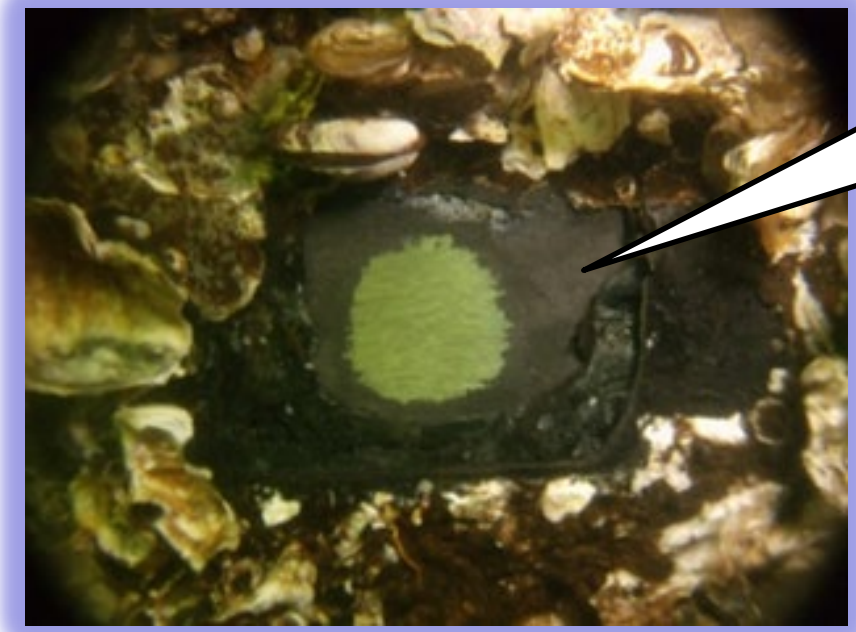


飛沫帯附近の土留鋼矢板の損傷状況（腐食開孔）

※写真等は条件の一例を示すものである。

常時水没している構造物の点検の効率化技術

【参考状況写真】



水中部の土留鋼矢板の肉厚調査を実施するために、付着物（貝類等）を除去する必要がある。

※写真等は条件の一例を示すものである。